



## 「人と人、地域のつながりをつくる」 ～いま、自分自身のために、考え、つくり、かえていくこと～

実は今、健康寿命を延ばすために最も効果的とされているのは、禁煙よりも、運動よりも、肥満解消よりも、「**人とのつながりをつくること**」だということが注目されています。人とのつながりが少ないことは、体の衰えを加速させる最大の要因とわかってきました。高齢者のみならず子どもや子育て世代、若者など、あらゆる世代の「孤立」を防ぐ取組みが求められています。

**自分自身と地域**のためにいま私たちが取り組むべきことは何なのでしょう？

私たち自身の問題意識をさらに深めて、課題解決へ向けた思いと活動を共有するための場としてコミオブ・セッションを開催します。

● 予想もつかない事態は現実のものとして目の前に迫っています。だれもがこの急速な変化の過程の中にあり、他人事とはいえません。

● 貧困・格差、非婚率の増加、100万人を割りこんだ出生数・孤立した個と個の関係が見えてくる。

● 「老老介護」世帯の割合が過去最高の54.7%  
(2016年国民生活基礎調査)

参加費無料

日時： **10月3日(水)** 10:00～12:30

会場：スペースオルタ（生活クラブオルタナティブ生活館B1F）

（横浜市港北区新横浜 2-8-4 TEL:045-472-5151）

<問題提起> 「たすけあい・支えあいの地域をつくるには～協同組織は何をめざす？」  
**加藤彰彦氏**（沖縄大学名誉教授） ※ペンネーム「野本三吉」

<鼎談> **加藤彰彦氏** × **大江守之氏**（慶応大学名誉教授） × **中川久美子氏**（元横浜市政策局職員）  
「いま、私たちが、考え、つくり、かえていくこと」

- ・人口減少社会といったどんな社会なのか？
- ・たすけあい・支えあいの地域づくりは何から始めればいいのか？

●主催：参加型福祉研究センター

Tel045-222-8720 Fax045-222-8721 e-mail : sanka-fukushi@systemken.org

**加藤彰彦氏**（沖縄大学名誉教授）

ペンネームは「野本三吉」。小学校教員退職後、日本各地の共同体を訪ねて旅をし、酪農や日雇い労働など様々な仕事を経験した後、横浜市立寿生活館相談員、児童相談所の相談員となる。以降、貧困の子ども・家庭支援を中心に精力的に活動を続ける。1991年横浜市立大学教員（社会福祉論）、1993年日本社会臨床学会設立に尽力、2002年沖縄大学教員（児童福祉論）、2010年に学長就任、2014年3月まで沖縄大学学長。

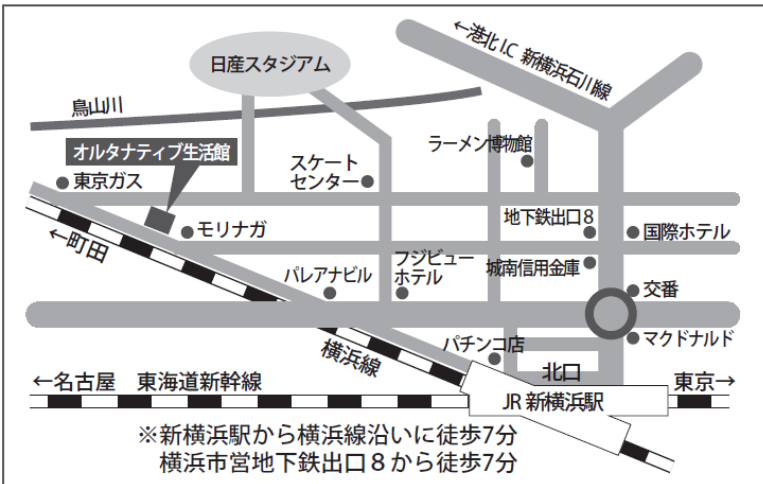


**大江守之氏**（慶応大学名誉教授、放送大学客員教授）

1975年 東京大学理学部卒業。1977年同大学工学部卒業。国立社会保障・人口問題研究所人口構造研究部長などを経て1997年より2017年まで総合政策学部教授。博士（工学）。藤沢市でグループリビング（COCO 湘南台、COCO たかくら）を運営するNPO 法人COCO 湘南理事長。2016、2017年に「参加システム」の「かながわ時評」を執筆。

**中川久美子氏**（元横浜市政策局政策支援センター主席研究員）

横浜市では、市民の生活意識や地域コミュニティ活動実態等の基礎調査から政策につなげる仕事を担う。2012年地域コミュニティの変化の実態を分析・共有する研究会「ヨコハマ パトナの会」を設立。会員22名が地域を取材し、執筆した事例を軸に地域市民が元気になる「栄養素=VITAMIN」をさまざまな構成でまとめた「VITAMIN BOOK」（2018年）を発刊。



**スペースオルタ**

（生活クラブオルタナティブ生活館B1F）  
●JR・横浜市営地下鉄新横浜駅徒歩8分  
横浜市港北区新横浜 2-8-4  
045-472-5151（オルタ館受付）



＜参加申込書＞

参加型福祉研究センター行き 〒231-0006 横浜市中区南仲通 4-39 石橋ビル 4F  
TEL045-222-8720 FAX045-222-8721 e-mail : sanka-fukushi@systemken.org

氏名	所属	連絡先